

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり

452

ーシリーズー あなたの人權・わたしの人權

『玖珠町人權公開講座に参加して』

人權公開講座受講生

重見 美紀

玖珠町人權公開講座で、いろいろなテーマ（部落差別解消・子ども・障がい者・外国人・女性・インターネットの問題）の講演を聞かせていただきました。

なかでも私の心にいちばん響いたのは、「子どもの人權」についてでした。

我が家には、思春期の子どもが四人います。

毎日、目まぐるしく時間が過ぎていき、忙しさや疲れから精神的にもいっぱいいっぱいになって、イライラしていました。

子どもたちとのやり取りにもイライラ感が出て、言葉や態度に「トゲ」があったように思います。

ちょうど、その頃に参加した講座が「子どもの人權」でした。

講師の池部先生の

「子どもは出来が悪くて当たり前。問題起こしてなんぼもん。初めから出来る子どもなんていないよ。」の言葉に、胸のつかえがスーッととれ、すごく気持ちが楽になったことを今でも忘れません。

大人の自分と子どもをつい同等に考えて、「これぐらいできて当たり前」と、子どもが出来ないことに腹立ちを感じていたからだと思います。

「あなたの子どもの頃を思い出してみて。」

と問われ、私の小中学生の頃を思い出しました。

両親の言葉に耳も貸さず、反抗して困らせたこともあったな。私も同じような道を辿って来たなと思いましたが。

あの時、父母はどんな気持ちだったのか。きつく叱られた記憶がないので、きっと私を信じてくれていたのかもしれないと思いました。

「子どもにもプライドがあるのよ。」

自分たちも親に何でも話をしてた？」そうです。言いたくないことは言わなかったし、嘘を言つてごまかしたりしていたなと思いました。

両親が私を信じてくれたように、私も子どもたちを信じて、少し長いスパンで子どもを見守ろう、あせらずに「待つ」ということを大切にしようと思いました。

子どもたちは、学校という社会の中で、毎日起こる出来事に一生懸命考えながら生きていることでしょう。まさに疾風怒濤の時代を生きる子どもたちのために、親として

「温かく見守る大きな心」

「子どもの変わる・成長できる力を信じ、待つこと」

今の私にいちばん必要なことであり、足りないことだと感じました。

先生から教えていただいた、たくさんさんのキーワードをいつも心に置いて、また新たな気持ちで子どもたち

と関わっていきたいと思います。

*疾風怒濤しゅうふうどとうⅡ「荒れ狂う波と激しい風」



この人權作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしています。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを、二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して(匿名可)、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人權・わたしの人權」までお届けください。

